



広報

川西

第140号

2017.12.11
発行

川西自治会館
川西自治連合会
TEL 69-2526

初冬の静かな朝

69回を数えた「ふれあいまつり」が
終わりました。次の日、旗返山を望め
ば、季節はもうすっかり冬。美しかっ
た紅葉も色を落とし始め、空気がガラ
スのように硬くて冷たくなっています。
今は静かにたたずむ旗返山も約45
0年さかのぼれば戦乱の世で、戦いの
たびに食糧を取り上げられたり城の修
理や武器の運搬に駆り出された農民は、
何を思っていたのでしょうか。

平成10年に発刊された郷土学習資料
集「みはら川」には、1553年の出
来事が詳しく描かれています。旗返城
の城主 江田隆貫（たかつら）は山陰
で勢力のあった尼子氏に味方すると山
口の大内氏の援軍を加えた毛利氏が一
気に攻めて来られ滅びることになりま
す。7月から10月までのわずか4か月
の出来事でしたが、ちょうど収穫を迎
えようとしていた農民にとっては作業
もできず、田畑を荒らされ大変だった
ことが予想されます。

歴史は真実の積み重ねではあるけれ
ども、いつしか人々の記憶から忘れ去
られていきます。しかし、この資料の
ような記録で思い起こされます。

未来を創ることと同じように過去を
知ることも大切な営みではないでしょ
うか。初冬の静かな朝にそんなことを
思いました。



第69回ふれあいまつり

11月19日（日）まめな川西いつわの里第69回ふれあいまつりを開催しました。心配していた雨もあがり、今年も約400人の来場者を迎え盛大に行うことができました。これらひとえに会場準備や片付けにご協力いただいた地域の各種団体の皆さま、ステージ発表にご出演くださった皆様、作品を出展してくださった皆様、町内会等各種ブースで出店してくださった皆様、学習発表会を行われた小学校児童を始め関係者の皆様、そして寒い日にもかかわらずご来場いただいた多くの皆様のおかげと、実行委員会一同大変感謝しております。今年、特別ゲストとして佐々木リョウさんのミニライブを行いました。「糸」という曲で始まったライブの中では、リョウさんなりの数々のメッセージを届けてくださいました。そして最後は、「君のいるまち川西」。リョウさん素敵なライブありがとうございました。

このふれあいまつりは、69回という回数が増えるにつれ、川西にとってなくてはならない行事です。住民の心を一つにできる行事があるのは本当に素晴らしいことです。来年は、第70回古希記念です。どうかみなさん、その日が来るのを楽しみに！

中山間地域における 移動サービスについて

10月号に掲載したアンケート集計結果の中に、移動手段について答えるものがありました。それを少し振り返ってみます。

運転免許証非保有率19%、自動車以外（バス・タクシー・徒歩等）で移動する人の割合10%、地域内交通があれば利用するという人の割合29%でした。この数値から大雑把に次のようなことが読み取れます。自動車免許があるうちは、もちろん自分で移動したいが、免許がなくなっても他の手段に頼ろうとしている人は少ない。

私たちは、確実に年を取っていきます。現在の状態が、明日の状態とは限りませんが、そのことはだれもよくわかっていて、そのことを受け入れようとは出来ないのです。（正常化バイアスという心理特性）

この課題をどのように解決していったらいいのでしょうか。

このことは、広島県にとっても大きな課題で、「既存の手段では将来住民ニーズに応えることは難しい。」「新たな交通確保策を構築することが急務である。」と認識されています。

川西では、そのことに危機感を持ち、既に里づくり委員会を中心として研究を始めているところです。アンケート調査もその一つでした。

そういう研究もあってか、この度、広島県とマツダ株式会社による共同実証活動プ

ロジェクトの候補地に選定されました。

12月1日（金）広島県の地域力創造課、三次市の定住対策・暮らし支援課、マツダの商品戦略本部から担当者が来られ、その説明がありました。今後のプロジェクトがどのように進展するかは、やや未定ですが、確実に新たなシステムの構築を求められているのだと感じました。

ここで少し、マツダが考えている姿を大きく二つ示します。10年後の自分がどのように生活しているだろうと想像しながら読んでみてください。

一つ目は、「運転を通じた心と体の活性化」(Well-Aging)です。全自動運転の技術を活用しながら運転する楽しさをいつでも提供し、健康寿命を伸ばしたい。

二つ目は、「人と人が助け合う心豊かな社会」です。送迎をお願いしたい利用者と、乗せることが可能な車とを通信によってマッチングさせ積極的に外出を楽しむ地域づくりをしたい。

公共交通だけの移動には限界が必ず来ます。その時のために、新たな交通システムを創り出し、だれもが安心して暮らせる地域を創っていかねければなりません。今後の展開にご注目ください。



農業サロン（生産出荷研修）

「郷づくり協議会だより」でご案内している農業サロン（生産出荷研修）もすでに10回を数えました。ご存知のように、郷づくり協議会とは、川西自治連合会・三次市・（株）川西郷の駅の三者が生活拠点である郷の駅を活性化するための課題を協議しよりよくしていこうとする会です。

この農業サロンは、郷づくり協議会でお願している営農指導員の藤村さんを講師に生産や出荷のために様々なテーマで研修をしています。少し振り返ってみましょう。

- 1 ハウスを建ててみよう
 - 2 土づくり その1
 - 3 土づくり その2
 - 4 農薬について その1
 - 5 農薬について その2
 - 6 加工品の届けについて
 - 7 漬物づくり その1
 - 8 漬物づくり その2
 - 9 パッケージの実際
 - 10 パッケージの工夫
- これからも毎週水曜日10時から旧川西支所2階で行っていますので、興味のある方は参加してみてください。

視察研修受け入れ

11月は、4回の視察を受け入れました。
7日（火）庄原市西城町21名、14日（火）山口県阿東町21名、16日（木）宮崎県都城市13名、29日（水）神石高原町豊松17名とありました。

どの団体も自治活動を活性化して地域づくりを進めていくためにどのような取り組みが必要か学ぶためです。

川西自治連合会の取組みは、アンケート調査を行い、住民の思いや願いを受け止め、その課題を解決していくために里づくり委員会を設置し調査・研究を行い、その結果に基づいて自治連常任理事事において執行していくという形をとってきました。この地域ぐるみの活動が、他への刺激になっているようです。

これからも川西スタイルで頑張ります。

庄原市西城町



山口県阿東町



宮崎県都城市



神石高原町豊松



おとなチャレンジ

11月12日（日）広島県の委託事業「おとなチャレンジ」が、川西を会場に行われました。「起業して社会貢献がしたい」「退職後社会の中で役に立つことはないだろうか」。こんな夢や希望を持っている大人が社会の中にある課題を考えあうことで新たな自分チャレンジしようとする企画です。

郷の駅を拠点とした活性化を考えるのが今回のテーマでした。フィールドワークやワークショップをしながら私たちとは違った視点で地域を見ていただきました。この課題解決がすぐに地域に当てはまるわけではありませんが、今後の取組みの参考になることもありました。

協定書締結

11月21日（火）自治会館に於いて、（株）川西郷の駅・（株）ファミリーマート・川西自治連合会の三者が「地域活性化包括連携協定書」を締結しました。

この協定書の目的は、「互いの資源を有効に活用した協働による活動を推進し、一層の地域活性化および地域住民サービスの向上に資すること」としています。

相互の連携や協力により、より良い地域になるよう一層努力していきたいと思えます。

半年に一回程度連携状況を確認したり協議したりする会も行います。皆様からのご意見もお寄せください。



ディスカバーむらの宝選定賞受賞

8月に応募した「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」農林水産省主催に中国四国農政局選定賞を受賞しました。授賞式は、12月11日（月）自治会館に於いて行います。受賞の様子は、1月号で紹介します

第5回シルバー学級

11月21日（火）5回目のシルバー学級を行いました。今回の講師は、奥田元宋・小由女美術館学芸員の吉川昌宏さんです。

皆さんは、学芸員がどんなお仕事をされているかご存知でしょうか。吉川さんは、美術館をレストランに例えて説明してくださいました。学芸員は、レストランのシェフ。お客さんにどんなメニューをお出ししようか、どのような味がいいか、どんな盛り付けがいいか、お客さんに喜んでいただくためにいろいろ考えます。学芸員もシェフと同じことをしているのです。どんな作品をどのように展示したらたくさんの人に鑑賞してもらえるか、その作品の良さがわかってもらえるかいつも考えておられます。現在、奥田元宋・小由女美術館には、3名の学芸員がおられ常設展と企画展をどのように展開するか企画されています。



次にその企画展について、これもレストランのメニューに例えて話をしてくださいました。年に大体5回程度の企画展が開催されます。現在開催中の「ウイリアム・モリス」は、企画展にあたります。この展覧会は、セットメニューで調理の段階までは、企画会社や新聞社などが揃えてきます。それをお客様に出すところ（展示方法）を学芸員が中心になり考えます。この方法とは別に自主企画があります。シェフが、食材集めから調理方法・盛り付けの段階まで全て行います。自主企画とは、その美術館が独自に企画して行う展覧会なのです。来年3月から予定されている「平田玉蘊の美の交遊」はその例です。

また、奥田元宋・小由女美術館は、県立クラスの展示面積があり、ある程度大規模な企画展にも対応できるそうです。

さて、今回のお話のメインは、奥田元宋さんと奥田小由女さんの美の世界についてです。

まず、奥田元宋、三次市吉舎町（双三郡八幡村）出身の日本画家で文化勲章受章者です。児玉希望に師事し、代表作「待月」で画家としての地位を築き、後には「元宋の赤」でその独特な画風を作り上げました。今回のお話では、元宋が歩んだ道を作品とともに紹介してくださいました。その中で重要なモチーフであった、「月」のこと、その月と美術館設計に係ることなど幅広いお話をいただきました。

次に、奥田小由女、同じく三次市吉舎町出身、人形作家として白の時代を創り上げ、奥田元宋と結婚し、現在は日展の理事長として活躍です。代表作は、「月の別れ」元宋との死別は、とても悲しい出来事でしたが、それをテーマとすることで悲しみの中から新たな作品を生み出しました。また、その後起きた東北震災、小由女さんにとっては、悲しいことの連続でしたが、その中からよみかえる勇気を作品に込めておられます。

このように美術館では、所蔵作品による常設展、セットメニューによる企画展と自主企画による企画展を行い、学術及び文化の発展に寄与しています。その目に見えない部分での思いやご苦労を知ること、講座生のみなさんが少しでも美術館に近づけたのではないかと思います。90分でした。

受講生の感想

奥田元宋先生の詳しいお話を聞けてとても良かったです。私が40歳のころ先生のとて重たい画集を買ったことを思い出しました。さっそく出して観賞しようと思いました。「待月」をじっくり眺めてみようと思います。

これをきっかけに美術館巡りができたらうれしいです。

シリーズ講座・サークル N04



カラオケ教室カジカ会

「うまく歌うコツを習って、おなかから声を出し
楽しみながら練習しております。カラオケには
様々な健康効果があります。唄うことは全身運動
であり、歌詞を覚えることは脳のトレーニングに
なりボケ防止につながります。」この文は、ふれ
あいまつりで紹介した原稿の一部です。毎月、2
回、岡崎先生指導のもと、練習に励んでおられま
す。課題曲を楽譜を見ながらワンコーラス、先生
のポイント指導も入り、練習中でもみるみる上達
しているのがわかります。
皆さん和気あいあいと練習されているのも印象
に残りました。来年の東部地区文化交流会での発
表も楽しみにしています。

パッチワーク教室

毎月2回活動されているパッチワーク教室。
布片を縫い合わせて1枚の大きな布を作る手芸
で、綿、裏布と3層に合わせてキルティングした
ものをパッチワーク・キルトというそうである。
一つの作品には、何十何百という布片が用いら
れており、大変根気のいる作業ですが、原井先生
の指導のもと6名の仲間楽しく活動されていま
す。

ふれあいまつりでは、大作も出品されており。
一年間の努力の成果が披露されました。
キットになったものや、自分のお気に入りの布
をどのように組み合わせデザインするか、いろ
いろ工夫されているようです。
これから新しい作品にどんどんチャレンジし
てください。

防災訓練

12月10日（日）各町防災
会、防災委員、そして住民
（上田町・海渡町は一部）
のみなさんの協力をいただ
き川西自主防災会防災訓練
を行いました。住民参加型
の防災訓練は初めてでした。
ご協力ありがとうございました。

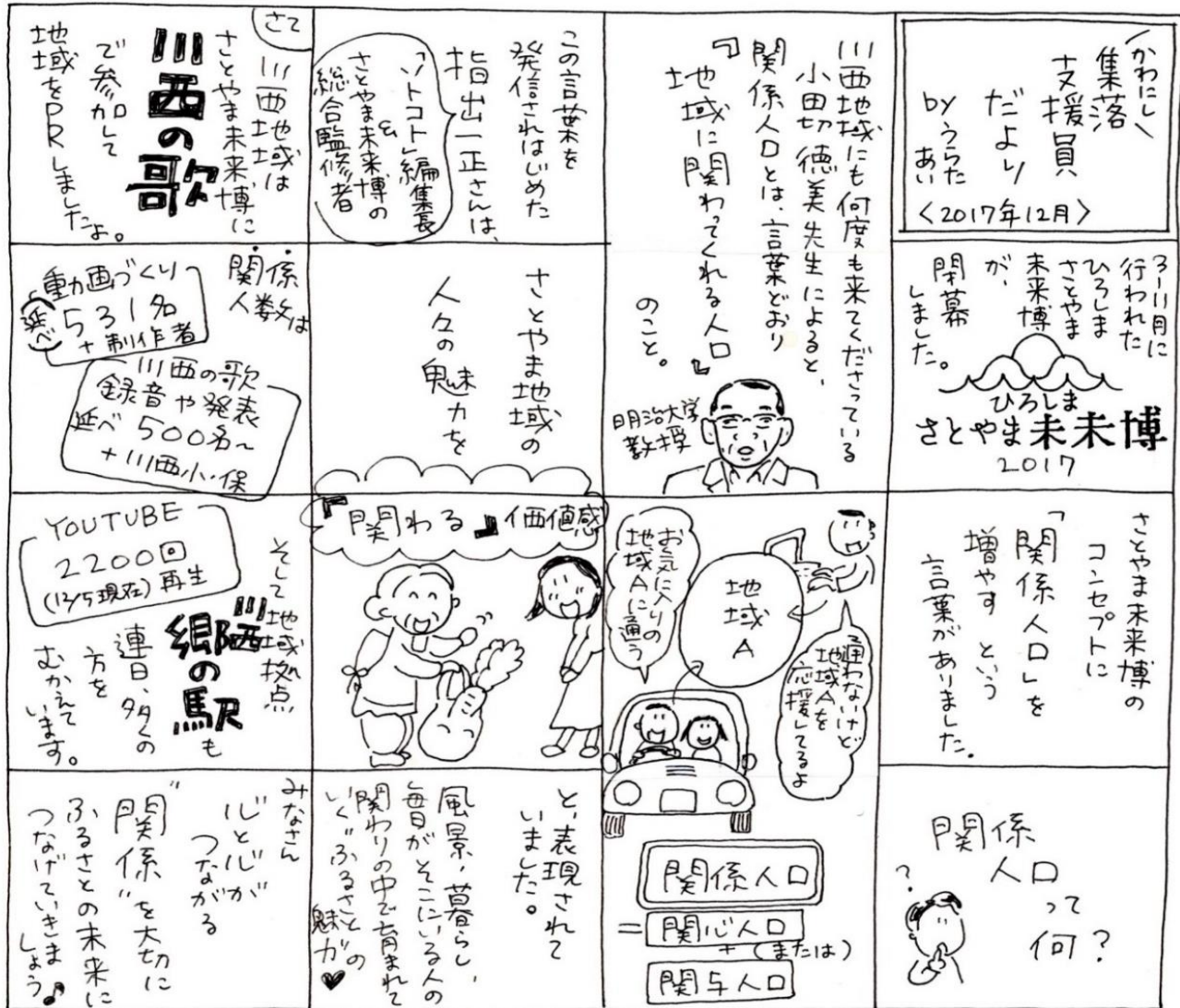
詳細は、1
月号でお知
らせします。



体験交流協議会 そば打ち



12月25日（月）自治会館
で、川西地区内のそば打ち
愛好家が講師となってそば
打ち会を行います。参加ご
希望の方は、12月20日まで
に自治会館（69252
6）までお申し込みくださ
い。詳しくは別紙チラシで
ご確認ください。



『関係人口』とは、移住はできないけど、その地域に愛着を感じ、関わりたいと思ってくださる人のことだそうです。

U・ターナー者が多い川西地区も、定住者人口は2006年の1350名から2017年4月の1085名へ、この間265名(19.6%)減少しています。地域の担い手への不安が募る中、「ふるさとを未来につなぎたい、地域の行事を次世代につないでいきたい」という想いを持っているのは、地域に暮らしている人だけではないんだ、と心強く思うことがあります。

例えば上田町では、上田小学校が閉校になってからも毎年「町民運動会」が継続され、この秋には第十四回目が開催されました。運動会に参加するのは町民、そして出身者家族やほしはら山のがっこう参加者が、人数や元気を補ってくれています。気の知れた町民が集まって過ごす楽しさもあるけれど、「この地域が好き」と言ってくれる方々と一緒に笑ったり話したりしながら過ごす運動会は、それもまた楽しい。毎年広島市から参加する家族もあって、「大きくなったねえ!」と地域の方が声をかけたりしている様子もステキです。そして他の日もボランティア作業に参加してくださったり、有原や石原のお祭りに行ったりと交流の輪が広がっています。

他にも『おとなチャレンジ(県主催・川西自治連受入)』という地域づくりアイデアを出し合うイベントで提案された「川西サイクリングイベント」の具体化を、「川西の発展に役立ちたい」と参加者の方々が進めてくださっている例もあります。

地域の担い手に『関係人口』を加える地域づくりが各地でスタートしています。

自治連この1か月

自治連の動き（11月10日～12月9日）

- 12 日 広島県知事選挙
大人チャレンジ（9:00～17:00）自治会館
- 14 火 視察研修（山口市阿東町より）11:00～
- 16 木 視察研修（宮崎県都城市より）13:00～
- 18 土 ふれあいまつり作品展示準備（13:00～）
- 19 日 第69回ふれあいまつり（9:00～15:00）
- 21 火 郷の駅・ファミマ・自治連協定書締結（11:00～）
シルバー学級（14:00～）
- 24 金 自主防災組織代表者会（14:00～）市役所
ふれあいまつり反省会（19:00～）
- 29 水 神石高原町豊松地区視察（10:00～）
- 12 1 金 郷づくり協議会拡大暮らし部会（10:00～）
要望書提出（9:10～）於：市役所 3名出席
- 4 月 小規模多機能施設運営委員会（13:00～）
- 5 火 東部地区文化交流会打ち合わせ会（16:00～）

今後の主な日程

- 10 日 防災訓練（10:00～）
- 11 月 「ディスカバーむらの宝」授賞式（14:30～）
里づくり委員会（19:00～）
- 14 木 館内清掃・避難訓練（13:30～）
- 15 金 郷づくり協議会拡大情報部会（19:00～）
- 19 火 第6回シルバー学級（14:00～）
- 23 土 鳥取県シンポジウムパネラー参加（会長）
- 25 月 体験交流協議会そば打ち（14:00～）
- 28 木 仕事納め

文芸川西短歌会

外に出るとどこからともなく野鳩来る「ホー」とひと鳴きえさの催促
夕やけに秋の訪れ感ずるに虫の鳴く声すくなくなりけり
彼岸花狭庭の隅に何げなく秋のひとつとき心やすらぐ
台風過ぎ茄子の畠に来てみれば乱れとぶ枝実をつけ垂れる
「無上尊」御院家師匠に賜はりし御筆を仰ぎ夕べに感謝
彼岸の入り妻と一緒に墓参り石段あれば手を取り合いて

原田浩子
平越鈴枝
三原雅子
堂本静香
上野正人
岡崎明治

お礼

ご厚志ありがとうございました。
紙面をお借りしお礼申し上げます。
（平成29年11月10日～12月9日）

香典返しとして

金一封 海渡町 山下 昭様
金一封 有原町 富永孝司様

川西地区社会福祉協議会

編集後記

〇〇〇〇（ドドドオー）、カー
プと三連覇を思わせる来季カー
プのキャッチフレーズ発表され
た。努力や泥臭さの「ド」も掛
け合わさっているようだ。
それを知っていたのではない
かと思うほど早く設置された海
渡のイルミネーション。敏感な
人が多いようだ。
今年も残りわずか。みなさん
も近づいて来る犬の足音に耳を
澄ましてみませんか。
この一年、お読みくださりあ
りがとうございました。来年も
たくさんのご記事をお届けします。